

火山の監視・活動評価・情報提供体制の強化

～組織・人員の増強、人材育成・能力向上～

気象庁

気象庁では、御嶽山の噴火を教訓として、
火山活動の評価能力を向上させ、的確かつ迅速な情報を発表するために、
ソフト・ハードの両面から火山の監視・活動評価・情報提供体制を強化

「火山監視・警報センター」の設置

気象庁本庁火山課に「火山監視・警報センター」を、札幌、仙台、福岡各管区気象台気象防災部に「地域火山監視・警報センター」を設置し、これまでより強化した体制により、火山の監視・活動評価・情報提供を実施（平成28年4月～）。



予報官、火山活動評価官等職員の増員

火山の活動の変化を24時間365日監視・評価し、より迅速に噴火警報、噴火速報等を発表するための「予報官」や火山活動の推移を的確に見極めるための「火山活動評価官」を新たに配置するなど、合計80名の増員を実施（平成28年度内順次）。その他、火山防災協議会を通じ平素から地元自治体との情報共有、地元自治体への支援、普及啓発を行う体制も強化。

火山機動観測体制の強化

わずかな変化も見逃さず、的確な火山活動評価に寄与する高頻度で戦略的な火山機動観測を実施するため、全国の機動観測を指導・管理する「火山機動観測管理官」を設置するとともに、火山機動観測を実施する職員を増強（平成28年度内順次）



気象庁参与の任命

火山に関する高い見識を有する大学等の専門家を「気象庁参与」として任命。
火山活動評価への参画や人材育成の観点からの職員への指導・助言を実施。

【気象庁参与】（平成28年4月1日任命）〈五十音順〉

石原 和弘（京都大学名誉教授）

植木 貞人（東北大学大学院理学研究科客員研究者）

大島 弘光（北海道大学大学院理学研究院准教授）

清水 洋（九州大学大学院理学研究院教授）

渡辺 秀文（東京大学名誉教授）



気象庁参与への辞令交付の様子

気象研究所研究官の各地域への駐在

- ・火山学の知識が豊富な気象研究所研究官を気象庁本庁、札幌、仙台、福岡各管区气象台に駐在。
- ・地の利を生かした研究を進めるとともに、職員の人材育成の観点から、火山活動評価・火山機動観測等にも参画。

火山業務に関する研修の充実

火山業務の研修を、内容をより専門化し、監視・活動評価・防災の各コースに分けて実施。気象庁職員の業務遂行能力のいっそうの向上を目指す。

【新設する研修】

「火山監視・警報業務特科研修」

「火山観測技術研修」

「火山活動評価技術研修」

「火山防災調整業務研修」



火山学に精通した職員が若手職員を育成